

図工・美術科における大学と附属学校の連携による教員養成の実践研究②

— 教育実習の成果をビジュアルレポートで展示発表する —

代表	東京学芸大学附属国際中等教育学校	嶽	里永子
	東京学芸大学	石井	壽郎
	東京学芸大学	西村	徳行
	東京学芸大学附属世田谷小学校	栗原	正治
	東京学芸大学附属世田谷小学校	金子	大介
	東京学芸大学附属小金井小学校	守屋	建
	東京学芸大学附属大泉小学校	水戸野	寛子
	東京学芸大学附属竹早小学校	桐山	卓也
	東京学芸大学附属竹早小学校	露崎	由海
	東京学芸大学附属世田谷中学校	栗田	勉
	東京学芸大学附属小金井中学校	大根田	友萌
	東京学芸大学附属竹早中学校	山田	猛
	東京学芸大学附属高等学校	神田	春菜

目 次

1. はじめに	16
2. 研究の目的	16
3. 研究の方法	16
4. 研究の実際	16
4. 1 アンケートによる検証	16
4. 2 ビジュアルレポートの作成と展開	18
5. 成果と課題	18

図工・美術科における大学と附属学校の連携による教員養成の実践研究②

— 教育実習の成果をビジュアルレポートで展示発表する —

代表	東京学芸大学附属国際中等教育学校	嶽	里永子
	東京学芸大学	石井	壽郎
	東京学芸大学	西村	德行
	東京学芸大学附属世田谷小学校	栗原	正治
	東京学芸大学附属世田谷小学校	金子	大介
	東京学芸大学附属小金井小学校	守屋	建
	東京学芸大学附属大泉小学校	水戸野	寛子
	東京学芸大学附属竹早小学校	桐山	卓也
	東京学芸大学附属竹早小学校	露崎	由海
	東京学芸大学附属世田谷中学校	栗田	勉
	東京学芸大学附属小金井中学校	大根田	友萌
	東京学芸大学附属竹早中学校	山田	猛
	東京学芸大学附属高等学校	神田	春菜

1. はじめに

図工・美術部会では、前年度（平成26年度）からの継続研究で、教育実習生が成果を視覚的に伝えるビジュアルレポートの作成、展示を行なっている。

今年度（平成27年度）は、ビジュアルレポートの効果についてアンケートによる検証を行なった。また、ビジュアルレポートの展示発表に加え、冊子化による共有に取り組んでいる。

2. 研究の目的

研究の目的については、「図工・美術科における大学と附属学校の連携による教員養成の実践研究」（東京学芸大学附属学校研究紀要第42集、pp.35-48、2015年）を参照。

3. 研究の方法

- ・教育実習後に提出されたビジュアルレポートを大学美術棟のエントランスにポスター形式で発表させる。
- ・レポートは冊子にまとめ貴重な資料として各附属、大学に保管し、実習指導に役立てる。
- ・ビジュアルレポートの効果について、前年度の展示を見た今年度の基礎教育実習生に対し、初年の実習前にアンケートをとり検証する。

4. 研究の実際

4. 1 アンケートによる検証

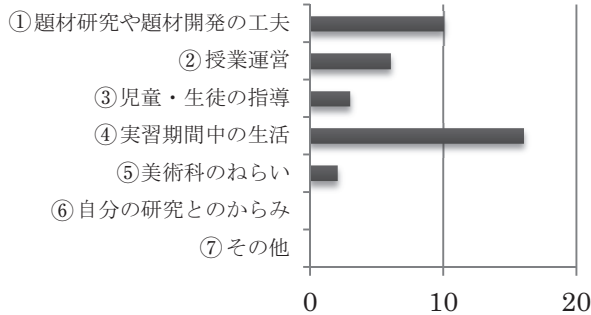
前年度のビジュアルレポートの効果について、展示を見た今年度の教育実習生を対象としたアンケートの項目と結果は以下である。

（有効回答者数：22名。質問1・質問2の数値の単位は人。質問3・質問4の数値の単位は%）

質問1

先輩の教育実習ビジュアルレポート（VR）を見て実習に関係するどんな内容に関心が持てましたか？（2つ以内を選択）

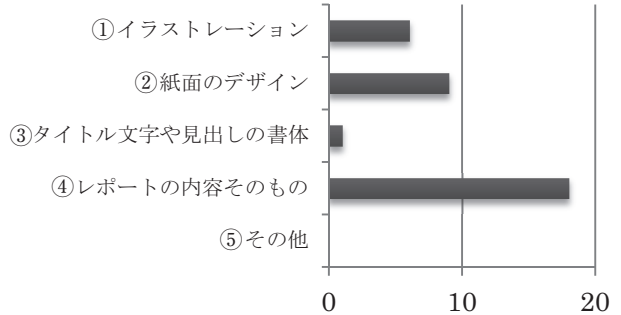
- ① 題材研究や題材開発の工夫
- ② 授業運営
- ③ 児童・生徒の指導
- ④ 実習期間中の生活
- ⑤ 美術科のねらい
- ⑥ 大学での自分の研究とのからみ
- ⑦ その他（自由記述）



質問2

先輩の教育実習ビジュアルレポート（VR）を見てレポートのどんなところに関心が持てましたか（2つ以内を選択）

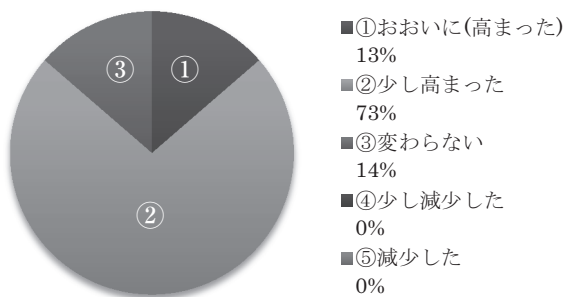
- ① イラストレーション
- ② 紙面のデザイン
- ③ タイトル文字や見出しの書体
- ④ レポートの内容そのもの
- ⑤ その他（自由記述）



質問3

先輩の教育実習ビジュアルレポート（VR）を見て実習への意欲を持つ（高める）ことができましたか？

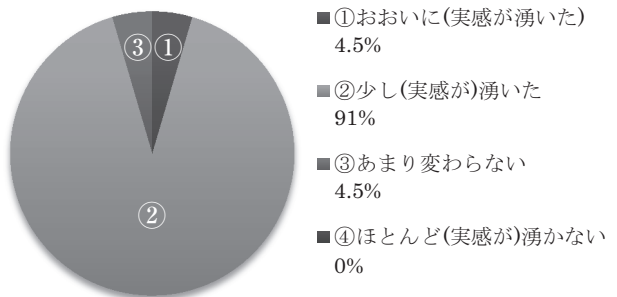
- ① おおいに（高まった）
- ② 少し高まった
- ③ 変わらない
- ④ 少し減少した
- ⑤ 失った



質問4

先輩の教育実習ビジュアルレポート（VR）を見て実習中のイメージを実感できるようになりましたか？

- ① おおいに（実感が湧いた）
- ② 少し（実感が）湧いた
- ③ あまり変わらない
- ④ ほとんど（実感が）湧かない



質問5

VRがどんな点で有効だと感じましたか？（自由記述）

※以下は自由記述の回答に便宜上番号を付けたもの

回答1：実習中の生活や図画工作の授業において心がけておくこと、実習中の先輩方の生活が分かること

回答2：何も知らないで行くよりもイメージが持っていた方が不安は少なからず減らせると思うので、その点で有効だと思った

回答3：実習の様子を具体的にイメージできるようになる

回答4：実際の実習期間中のタイムスケジュールや生活の様子がわかってよかったです

回答5：実習中の生活がどのようになっていくのか想像がつかない人もなんとなく想像できる手立てになる点で有効だと思いました

回答6：イメージがついた

回答7：実習中の生活や実態を知り、漠然としていた不安を解消するために役立った

回答8：何も知らないで行くよりもイメージが持っていた方が不安は少なからず減らせると思うので、その点で有効だと思った

回答9：実際に体験しないとわからないことは多いですが、VRを読んだ方が右も左もわからない根本的不安を払拭できるという点で有効だと感じました

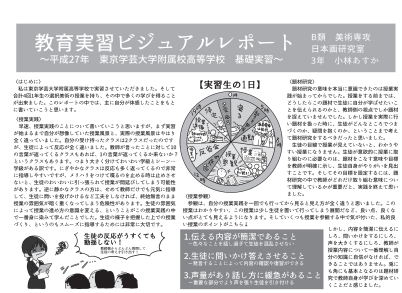
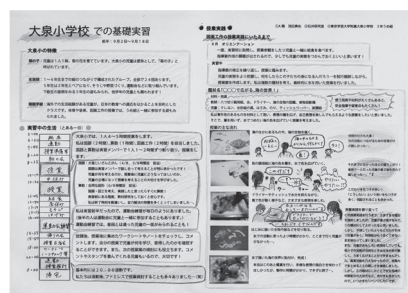
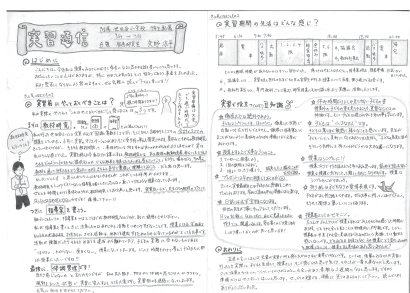
回答10：どんな課題を意識して実習を過ごせばいいのかを実習前にイメージできた点がよかった

回答11：イラスト等で表現されているので見やすいというか、近寄りやすいと感じました

- 回答12：初めての実習は不安な事が多いが、ただのレポートではなく様々なイラストやデザインなどの点で工夫されており、どんな人でも読みたい、読みやすいと思えるようなレポートであること
- 回答13：実体験をもとに書かれていたので、説明とかよりもわかりやすかった
- 回答14：文字だけでは伝わらないことが伝わる点
- 回答15：日誌よりも自由に実感などを書いて残せる点
- 回答16：実習から先輩方が感じたことや学んだことが分かり、実習への意欲が湧くところ
- 回答17：緊張が少しほぐれた
- 回答18：実習に関心を持てる
- 回答19：自分も実習に行ったら、先輩方のように教育などについて悩み、レポートを書かなければいけないという危機感
- 回答20：先輩の失敗談、アドバイスを共有できる
- 回答21：どこで実習したかが明瞭になっている点、どんな題材を行い、その流れが明示されている点
- 回答22：具体的にどのような点に気をつけて指導するか、指導案を作る際や実際に指導を行う際に参考になる

4. 2 ビジュアルレポートの作成と展開

今年度も基礎実習に取り組んだ各校の学生がビジュアルレポートを作成した。これらのビジュアルレポートは、大学の美術棟に展示し学生が見られるようにするとともに、冊子化して各附属と大学に保管し、次年度の実習指導に役立てていく。以下は展示・冊子化されるビジュアルレポートの例である。



5. 成果と課題

アンケートから判明したこと、考察できることを以下に述べる。

まず、教育実習前の関心事としては、教育実習中の生活、題材づくりの具体的な様子を知りたい学生が多い。

これは質問1で「実習期間中の生活」、「題材研究や題材開発の工夫」の回答が一番多いことから伺える。また、「授業運営」「児童・生徒の指導」の回答も多いことから、子ども達と実際に接する場面への関心の高さも伺える。

次に、質問2から「ビジュアルレポートの内容そのもの」「紙面のデザイン」に関心を寄せている学生が多く、実習経験者からの貴重な情報を分かりやすく得られる媒体として役割が見えてくる。

質問5からは、ビジュアルレポートの有効性が大きく以下の4つ挙げられる。

- (1) 実習生活のイメージがわかりやすい（回答1～10参照）
- (2) 文書等より伝わりやすい（回答11～15参照）
- (3) 実習に対する意欲関心を高める（回答16～19参照）
- (4) 具体的な実習内容がわかる（回答20～22参照）

ビジュアルレポートの効果として、ビジュアルレポートを見た後、実習への関心（質問3）は、「おおいに高まった・少し高まった」を合わせると86%、実習中のイメージの実感（質問4）は「おおいに湧いた・少し湧いた」を合わせると95.5%にのぼっている。しかし、「少し～」と答えている学生がほとんどであることから、どの程度の効果があったのかは検証と改善の余地がある。